

# 東京医科歯科大学 小児病棟

大学病院の小児フロア改修プロジェクトで、患者ときょうだい児のための空間の設計と改修を行いました。電話ボックスをこどもの居場所として活用するなど、こどもの活動領域を可視化して明確に他の空間と分ける計画を提案しています。小児病棟には、いろいろな病気や怪我のこどもがいます。スタッフの「白衣」を怖がるこどももいます。そこで、「白」い羊が、色とりどりの動物に出会う中で、「自分の色が一番好きと気づく」という物語をつくり、それを空間に反映しました。



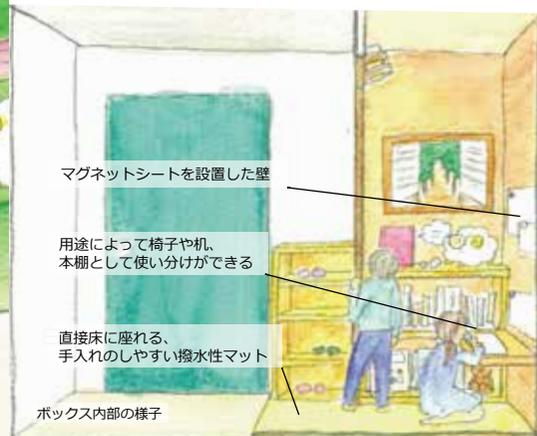
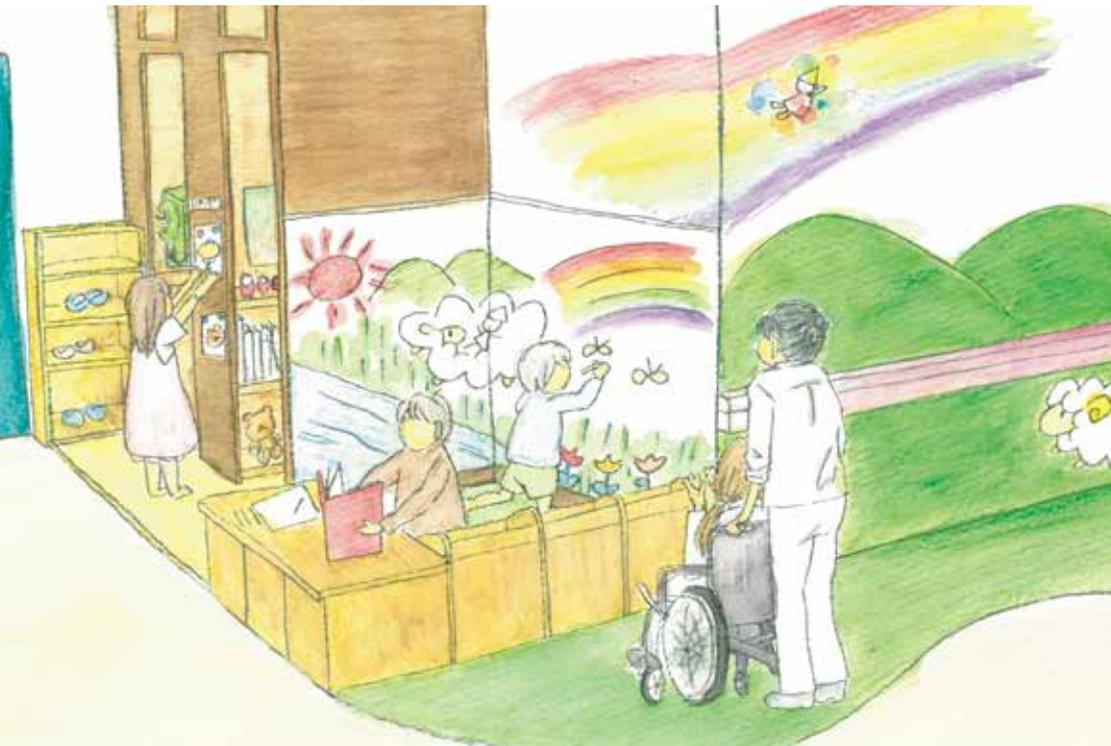
子どもの視線に配慮した配置計画



歩くのが楽しくなるようなデザイン計画



床デザインにより子どもの行動範囲を制限する



マグネットシートを設置した壁

用途によって椅子や机、本棚として使い分けができる

直接床に座れる、手入れのしやすい撥水性マット

ボックス内部の様子

■全体ゾーニング

- ① 白ひつじとにじいろの木
- ② 広い草原に、一匹の白ひつじが住んでいた。
- ③ ある日白ひつじは、空にかかる大きな虹を見た。なんてきれいな色だろう。
- ④ すっかり夢中になった白ひつじが虹を追っていくと、
- ⑤ 虹ののって降りてきた虹のこびとに出あったよ。
- ⑥ 「雲から生えるにじいろの木「たのむとね」虹のこびとは教えてくれた。「どんな色にだって、そめてくれるんだよ」

なんてすてき。白ひつじは、いちばんすてきな色にそめてもらうため虹のこびとと一緒に旅に出た。

森の中の⑦色のぞう。サバンナの⑧色のキリン。⑨色のライオン。

- ⑩ ちいさな色のシマウマ。川をくぐると
- ⑪ どり色のかめ。
- ⑫ 黄色い色の魚。空へのぼると⑬青い鳥。

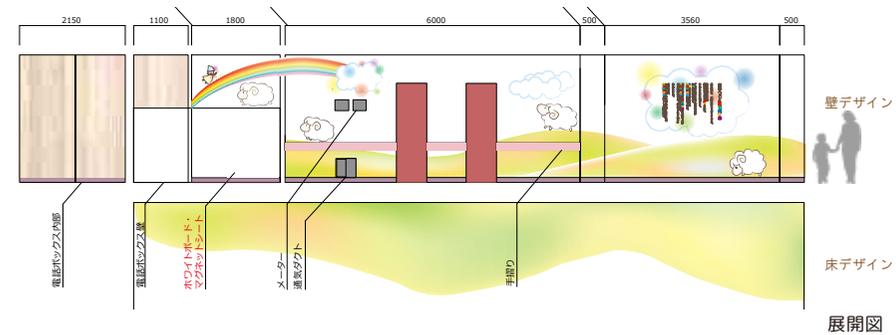
たくさんの動物にであつた。どの色も、とてもすてきだ。

⑭ そうして白ひつじはついに、雲から生えるにじいろの木を見つけた。

「やっとついたね。きみ、なに色になりたいの？」虹のこびとがきいてくれたけど、ぼく、じふんの「白」がいちばんすてきな色みたい。

⑮ いちばんすてきな色をみつけた白ひつじは、虹のすべり台をおりて、草原にかえってきた。

おかえりなさい、白ひつじ。



壁デザイン

床デザイン

展開図

床・壁デザイン案

提案した物語

## ワンストップ相談センター SODA

若者の複雑で多岐にわたる生きづらさ・こころの悩みに寄り添う、ワンストップの早期介入・相談支援センター。利用される方がゆったりと過ごし、こころの悩みをうちあげられるよう、「木陰でお話する」空間をコンセプトにして、相談室を中心に内装の改修と模様替えを行いました。

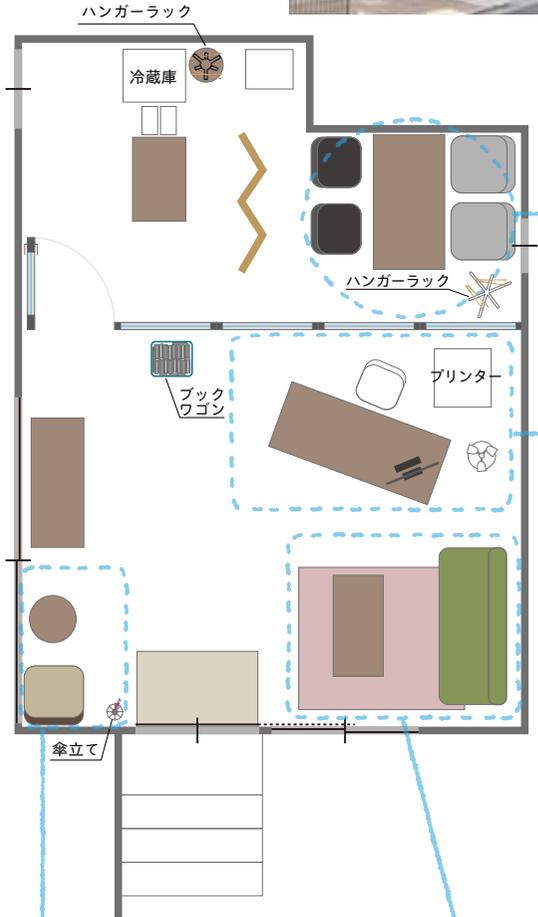
ワンストップ相談センター SODA は、厚生労働省の研究事業を基にして、医療法人財団厚生協会東京足立病院・メンタルクリニック三叉路と東邦大学医学部精神神経医学講座が実施しています。



模様替え・改修前



■外観  
商店街の通りから少し小路に入った閑静ながら程よく人通りのある住宅街に位置する。日本舞踊の稽古場でもあった住宅を改修してメンタルクリニック三叉路と若年者ワンストップ相談センター SODA がある。



■相談室  
相談の利用者は一人の場合もあれば、同伴者と共に相談を受ける場合もある。



■受付・執務スペース  
受付や事務作業などの執務を行う。

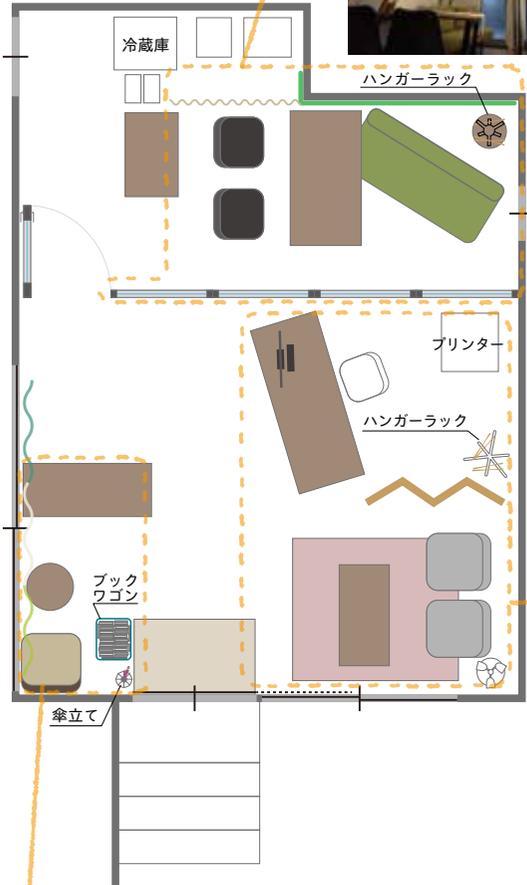


■待合スペース①  
相談前の待合スペース。利用者の方が相談中に、同伴者が待つ場合もある。



■待合スペース②  
相談後に少しひとりで過ごしたいときや、利用後のアンケート記入の場所。

模様替え・改修後



■相談室  
ゆったりと座って話せるようソファを相談室に配置。木陰をイメージさせる壁シートでの装飾やファブリックでの照度調整により落ち着いた空間を演出した。



■受付・執務スペースと待合スペース①  
受付テーブルは入ってくる利用者に向かい合いすぎないように配置し、待合スペース①とパーティションで仕切ることによってスタッフと利用者が滞在しやすい設えとした。



■待合スペース②  
木漏れ日をイメージしたカーテンとガラスフィルムで窓辺を柔らかく豊かな環境に設えた。

